

事務事業名	公共土木施設災害復旧事業(H26災)	所属部	建設部	所属課	建設工務課	
総合計画体系	政策名	(Ⅱ)安全・安心で快適なまち<<定住環境>>	所属G	公共土木グループ	課長名	西川 徹
	施策名	(12)生活道路の整備	担当者名	吾郷雄一	電話番号	0854-40-1063
	目的	対 A)市民(道路利用者) B)生活意 市内を安全に移動できる。	予算科目	会計 款 大事業 大 現年発生公共土木施設災害	(内線)	2742
	対象	道路(市道) 意 図	0 1 5 5 0 3 項 目 中事業 中 復旧事業	1 0 1 0 0 1 項 目 中事業 中 現年発生公共土木施設災害		復旧事業
	基本事業名	(036)生活道路の維持管理				
	目的	対 道路利用者 意 図 安全に移動できるように道路を維持管理し、情報を発信する。				

1 現状把握[DO]

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度～)
<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (26 年度～ 27 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
公共災害復旧事業は、市管理の河川、道路が特定の雨などにより被災を受けた場合、復旧するものである。 この事業は国の補助を受けて行う事業であり、災害復旧の基準としては、日雨量80mm以上、時間雨量20mm以上で、河川の場合は雨量の他に断面積の2分の1以上の流量が必要。 また、補助対象事業費は60万円以上である。 【H26年度】 56,241千円 【H27年度繰越】 工事請負費 3,435千円

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	27年度実績(27年度に行った主な活動) ・繰越分1箇所工事完成 (上山川河川災害復旧工事)	28年度計画(28年度に計画する主な活動) ・26年度成功認定			
	② 活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	ア 発注箇所	箇所		23	-	
	イ 繰越箇所	箇所		-	1	
	ウ					
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	災害発生箇所	ア 発生箇所	箇所		23	-	
		イ 繰越箇所	箇所		-	1	
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)	
道路、河川の機能を復旧することによって、安全に利用することができる。	ア 発注率	%		100.0	100.0		
	イ 完了率	%		95.0	100.0		
	ウ						

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (27年度決算)	② コストの推移	単位	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(計画)
工事請負費 3,435千円 計 3,435千円	財源内訳	国庫支出金	千円	33,219		
		県支出金	千円			
	事業費	地方債	千円	18,300		
		その他	千円			
	人件費	一般財源	千円	4,722	3,435	
		事業費計(A)	千円	56,241	3,435	
	トータルコスト(A)+(B)	正規職員従事人数	人	5	1	
		延べ業務時間	時間	880	20	
		人件費計(B)	千円	3,421	78	
			千円	59,662	3,513	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
災害前の維持管理体制の確立と、査定までの事務の効率化を図る必要がある。	普段から道路巡回パトロールが必要である。 測量設計については外部委託を行い事務の軽減を図った。	生活に直結する市道、河川護岸の災害については、早急な復旧が望まれる。

事務事業名	公共土木施設災害復旧事業(H26災)	所属部	建設部	所属課	建設工務課
-------	--------------------	-----	-----	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	早期復旧のために測量設計の外部委託による事務の効率化を図っている。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	道路河川の復旧ができず利用者の利便性、安全性の確保ができない。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	復旧すべき施設が事業により異なるため統廃合は難しい。		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由		原形復旧が原則であり、復旧工法も経済比較により決定している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由		すでに測量設計など委託を行っている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由		市管理の道路、河川であり住民負担はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
			災害発生から復旧工事まで効率的に進捗するよう心掛けている。河川や道路については日常のパトロールで記録を残すことが必要。	

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持		×	低下	×	×
		コスト																	
	削減	維持	増加																
成果	向上																		
	維持		×																
	低下	×	×																
災害復旧事業は異常な天然現象によるものであるため、事業量の把握は困難であるが、現状どおり事務の効率化を図ることは必要。	廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																		